

[057] 文獻探究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/3077261>

出版情報 : 文獻探究. 57, 2019-03-31. 文獻探究の会
バージョン :
権利関係 :

『文献探究』五十七号をお届けいたします。今号は四本の論考が揃いました。門屋・蛭沼・村上・吉田稿は、長崎県佐世保市宇久町神浦にある宇久島神社の文庫目録を紹介するもの。金稿は、孫在賢氏の著書に対する問題点を述べたもの。辛島・ありあけの會稿は、『在明の別』本文における校訂箇所を一覧としてまとめたもの。その他、前号より引き続き、西村遠里『居行子』の翻刻を載せる吉田稿を掲載しています。

*

今号の口絵は、本学附属図書館音無文庫に所蔵される、四冊本の『とりかへはや物語』の紹介です。本書は近世中期の国学者・山岡浚明によって校訂された、いわゆる「浚明本」系統に属するものです。特筆すべきはその朱書注にあり、岡本保孝『取替ばや物語考』の草稿に基づくと考えられる書入れや、伊藤光中による校訂本文の特徴を本書があわせ持っているという点で、本書が非常に特殊な位置づけにあることが田島氏の解説によって明らかにされています。

口絵にふさわしい資料がございましたら、解説を添えて是非編集部までお寄せ下さい。

*

昨年（平成三十年）の秋からは、伊都キャンパスに完全移転したため、本誌を伊都からお届けするのは今号をもって最初となります。この節目の年度に、本誌の発送が先か、新元号の発表が先か、などとやらぬ心配をしてみました。令和元年度こそは必ずや……。ご投稿される方も、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

*

前号に引き続き、博士後期課程の吉田宰が代表を務めております。今号に関する編集・会計事務には、吉田の他、博士後期課程の藤田優子、余鴻燕、修士課程の高須芳之介、河野理菜、山本祐久があたりました。次号（五十八号）の投稿締切は来年二月末日、三月刊行の予定です。多数のご寄稿をお待ち申し上げます。

（吉田記）